

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 23 年 9 月 8 日 (2011.9.8)

【公開番号】特開 2010-32892 (P2010-32892A)
 【公開日】平成 22 年 2 月 12 日 (2010.2.12)
 【年通号数】公開・登録公報 2010-006
 【出願番号】特願 2008-196406 (P2008-196406)
 【国際特許分類】

G 0 2 B 7/02 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 7/02 C

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 7 月 21 日 (2011.7.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

レンズを保持する保持枠と、
 ガイド溝が設けられた支持部材と、
 前記ガイド溝に係合し、前記保持枠に取り付けられる第 1 の係合部材と、
 前記保持枠の動きを光軸中心での回転方向のみ規制するよう前記保持枠に係合する第 2 の係合部材と、
 を有し、

前記保持枠と前記支持部材の相対回転に伴い、前記ガイド溝に沿って前記第 1 の係合部材を移動させることにより、前記保持枠と前記支持部材との光軸方向の相対位置を調整すると共に、前記第 1 の係合部材を回転させることにより、前記保持枠と前記支持部材との相対倒れを調整し、

前記第 2 の係合部材を前記支持部材に対して固定することにより、前記保持枠を前記支持部材に対して固定することを特徴とするレンズ鏡筒。

【請求項 2】

前記保持枠には前記第 2 の係合部材をはめ込む凹部が設けられ、
前記第 2 の係合部材は、凹部によって光軸中心での回転方向の移動が規制され、
 光軸方向および半径方向における前記凹部の寸法は、前記光軸方向および前記半径方向における前記第 2 の係合部材の寸法よりも大きいことを特徴とする請求項 1 に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 3】

前記第 2 の係合部材はナットであり、ビスとともに前記支持部材を挟むようにして固定されることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 4】

前記第 1 の係合部材は偏心コロであることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載のレンズ鏡筒。

【請求項 5】

請求項 1 乃至 4 に記載のレンズ鏡筒を有することを特徴とする交換レンズ。

【請求項 6】

請求項 5 に記載の交換レンズと、

前記交換レンズを装着可能なカメラ本体と、を備えることを特徴とするカメラシステム

。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】レンズ鏡筒、交換レンズ及びカメラシステム

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００８】

上記目的を達成するため、本発明のレンズ鏡筒は、レンズを保持する保持枠と、ガイド溝が設けられた支持部材と、ガイド溝に係合し、保持枠に取り付けられる第１の係合部材と、保持枠の動きを光軸中心での回転方向のみ規制するように保持枠に係合する第２の係合部材とを有している。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１２】

図１は、本発明の実施形態である一眼レフカメラ用交換レンズと、それが取り付けられるカメラ本体とからなるカメラシステムの概略を示す断面図である。図２は、図１に示すＡ部の部分拡大断面図である。図３は、図１の主要部分分解斜視図である。